

### ■開催概要

- シリーズ名称 : 2022 鈴鹿クラブマンレース Round 4
- 主催 : 京都レーシングハイブリッドクラブ (KRHC)、鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)  
[TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup 2022] TOYOTA GAZOO Racing主催
- 協力 : AASC、ARCN、OCCK、ARC、チーム淀
- 競技 : JAF公認・準国内格式 公認番号2022-3002
- 会場 : 鈴鹿サーキット／フルコース (5.807km)
- 開催レース : 総参加台数……95台  
NゼロVitz関西シリーズ第3戦 …………… 20台  
86／BRZ (ZN6／ZC6) …………… 5台  
スーパーFJ …………… 23台  
Clubman Sport 120 Minutes Endurance Challenge (MEC120) ……… 47台  
(CS2 C……7台、CS2 G……4台、クラブマンスポーツ……36台)
- 併催クラス : TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup 2022西日本シリーズ第4戦…… 64台
- 開催日 : 2022年6月18日(土)・19日(日)
- 天候 : 18日(土)雨／ウェット、19日(日)晴れ／ドライ



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。  
[https://www.suzukacircuit.jp/result\\_s/2022/clubman/](https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2022/clubman/)

### ■次回レース開催概要

- シリーズ : SUZUKA Race of Asia 併催 2022 鈴鹿クラブマンレース Round 5
- 開催日 : 2022年7月16日(土)・17日(日)
- 主催 : 中日本自動車短期大学レーシングクラブ (ARCN)、鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 会場 : 鈴鹿サーキット／フルコース (5.807km)
- 開催クラス : フォーミュラEnjoy
- 併催クラス : N-ONE OWNER'S CUP



クラブマンスポーツクラス (VITA) とCS2クラスを対象とした120分耐久レースの「Clubman Sport 120 Minutes Endurance Challenge (MEC120)」が開催された

## 2クラスの混走による120分耐久の「MEC120」をはじめ、 見どころ満載のレースが披露されたRound 4

西コースで開催されたRound2を除く全てのラウンドがフルコースを舞台に開催されている今シーズンの鈴鹿クラブマンレース。今回のRound4は6月18日(土)と翌19日(日)の2DAY大会として大いに盛り上がりました。

今回の最大のトピックは2021年に60分耐久レースとして開催されたクラブマンスポーツクラス(VITA)とCS2クラスの耐久レースが、今シーズンは時間が延長され、120分耐久レースの「Clubman Sport 120 Minutes Endurance Challenge (MEC120)」として開催されたこと。CS2クラスは今シーズンから「WEST16-C」による「Cクラス」と、同じくウエストレーシングカーズ製の「WEST v.Granz」による「Gクラス」との混走によって開催されているため、今回の「MEC120」はクラブマンスポーツクラスを合わせると3クラスの混走による戦いに。様々なマシンが入り乱れ、スタートからファイナルラップまで激しく順位を入れ替える展開となりました。また、男性、女性1名ずつがチームを結成するMix-Genderクラスが設定され、女性ドライバーがスタートドライバーをつとめたことも話題を集めました。

トヨタ・ヤリスのワンメイクで争われる「TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup」も注目を集めました。6速マニュアル車両とCVT車両が混走するこのレースは18日(土)の午後に2グループに分けて公式予選が行われた後、決勝レースに進出できなかった16台によるコンソレーションレースが行われました。また、48台による19日(日)の決勝レースではワンメイクならではの接戦が披露されました。

鈴鹿クラブマンレースの定番カテゴリーであるスーパーFJクラスその他、昨シーズンから新たに鈴鹿クラブマンレースに組み込まれた「NゼロVitz関西シリーズ」の第3戦、今シーズンからの新規カテゴリーである「86/BRZ(ZN6/ZC6)」のレースも注目を集めました。

次回は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、2020年、2021年の大会が中止となった「SUZUKA Race of Asia」が併催される7月16日(土)・17日(日)のRound 5。Hondaの軽自動車「N-ONE」によるナンバー付きワンメイクレースの「N-ONE OWNER'S CUP」を含め、白熱したバトルが展開されるであろうこのRound 5にも是非ご注目ください。



前身の「Netz Cup Vitz Race」同様、レースデビューにぴったりのワンメイクレース「TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup」の2022西日本シリーズ第4戦が併催された

## ■NゼロVitz関西シリーズ第3戦

ホールショットを奪ったのは2番グリッドスタートの三浦康司。それにポールポジションスタートの坂野貴毅、6番グリッドスタートの白井涼と続く。三浦、坂野、白井(涼)、4番グリッドスタートの白井博、7番グリッドスタートの三谷明正、3番グリッドスタートの宮田耕治のオーダーでオープニングラップを終了。2周目になると三浦と坂野が白井(涼)以降を引き離すことに成功する。白井(涼)は単独3番手に。坂野は三浦より速いペースで周回し、三浦にプレッシャーをかける。6周目のシケインで坂野が三浦に接近するが、パスするには至らず、逆に三浦が坂野を引き離す。結局、三浦がトップチェッカーを受けた。



坂野と三浦のみが公式予選で2分48秒台をマークしてフロントローを獲得。2台は良いクラッチミートを披露し、三浦、坂野のオーダーで1コーナーへと突入していった



オープニングラップの1コーナー進入時から一度もトップの座を明け渡すことがなかった三浦(写真中央)が優勝。2位は坂野(同左)。白井(涼)が3位となった

## ■86／BRZ (ZN6／ZC6) Class

ポールポジションスタートの角谷昌紀が良いクラッチミートを披露してホールショットをゲット。その角谷がオープニングラップから早くも後続を引き離しにかかる。オープニングラップ終了時点で角谷は2番手以降に1秒536のアドバンテージを築くことに成功。それに3番グリッドスタートの水野裕治、2番グリッドスタートの青柳貴明と続く。独走状態を続ける角谷の後方で水野、青柳も単独2番手、単独3番手に。さらにその後方で岩田隆則と元田直樹がテールtoノーズのバトルを展開する。トップ3台は危なげない走りを披露。ファイナルラップでファステストラップをマークした角谷がポールtoウィンを飾った。



角谷と青柳の2台が公式予選で2分46秒台をマーク。3番手タイムの水野は2分51秒台だったため、角谷と青柳の優位が予想される決勝レースに



角谷(写真右)が2位の水野(同左)以降に13秒626という大きなアドバンテージを築いてトップチェッカー。蓋を開けてみれば角谷の独断場と言える展開となった

## ■TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup 2022西日本シリーズ第4戦

日本初のJAF公認ナンバー付き車両によるワンメイクレースとして21年間続いた「Netz Cup Vitz Race」に変わるレースとして注目を集めているトヨタYarisによるワンメイクレースが「TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup」。鈴鹿サーキットでは西日本シリーズが開催されており、今回の鈴鹿クラブマンレースRound 4では2022年シーズンの4戦目が行われた。同じく鈴鹿サーキットでは9月3日(土)、4日(日)の鈴鹿クラブマンレースRound 6にて6戦目も開催される。こちらも楽しみにしていただきたい。



48台フルグリッドでスタートした決勝レース。TAGAMI DAISUKE(写真中)がファイナルラップまで続いた神谷裕幸(同左)とのバトルを制して総合優勝を飾った



総合表彰の他、CVTクラスのカテゴリー別表彰式も開催された。16年連続で鈴鹿8耐に参戦した記録を持つ金山和弘(写真中)がCVTクラスのウィナーに輝いた

## ■スーパーFJ Class

ポールポジションスタートの居附明利が良いクラッチミートを披露してホールショットをゲット。2番グリッドスタートの森山冬星がホイールを若干スピンさせながらそれに続く。4番グリッドスタートの岡本大地がシケイン進入で森山をパス。居附、岡本、森山のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。2周目に森山が2番手に返り咲くと、居附、森山、岡本は単独トップ、単独2番手、単独3番手に。その後方では高木悠帆と渡会太一がテールtoノーズの状態で4位の座を争う。森山が徐々に居附に接近。7周目の1コーナー進入で森山が前に。居附のマシンが9周目にスローダウン。森山がトップチェッカーを受けた。



2レース制で行われたRound 3のRace2で優勝した居附、同Race1で優勝した森山がフロントローを獲得。今回もその2台の一騎打ちが予想されたが…



終盤に単独トップとなった森山(写真中)が優勝を飾り、ランキングリーダーに。ディフェンディングチャンピオンの岡本(同左)が2位入賞を果たした

## ■Clubman Sport 120 Minutes Endurance Challenge (MEC120)

ポールポジションからスタートした大島和也／樋口紀行組の大島がホールショットを奪うと、その大島、2番グリッドからスタートした小山美姫／依田学嗣組の小山がオープニングラップから早くも3番手以降を引き離しにかかる。吉村一悟／寺西玲央組の吉村が単独3番手に。成瀬茂喜／黒岩巧組の成瀬、入谷敦司／矢倉完治組の入谷らが4位の座を争う。デグナーカーブでコースアウトしたマシンがあったことにより、セーフティカーがコースイン。リスタート後も大島と小山が頭ひとつ抜け出す良いスタートを披露したが、8周目の1コーナー進入で小山が大島をパス。同じ週の130R手前では大島がトップに振り返る。



耐久レースのため、ポールポジションを獲得した大島／樋口組がイン側からスタート。大島を先頭に、ローリング式により120分耐久レースのスタートが切られた



大島／樋口(写真中央)がポールtoウィン。後続に37秒982という大きなアドバンテージを築いての完全優勝だった

## ■Clubman Sport 120 Minutes Endurance Challenge (MEC120) 【その2】

16周目終了時点でトップ大島がピットに入り、樋口にドライバーチェンジ。続く17周目終了時点で小山もピットインし、依田にチェンジする。2コーナーでクラッシュしたマシンがあったことにより、このレース3回目のセーフティカーが入った後の暫定順位は野上敏彦／野上達也組の野上(敏)、依田、樋口のオーダーに。セーフティカー走行中に樋口がピットに入り、大島にドライバーチェンジする。リスタート直後に依田がピットインし、小山にチェンジ。その直後、暫定トップの野上(敏)に対し、リスタート違反によるドライビングスルーペナルティが出される。蓋を開けてみれば序盤から好走を見せた大島／樋口がトップチェッカーを受ける結果となった。



CS2 Gクラスのウィナーは総合トップの大島／樋口(写真中央)。クラス2位は総合5位の小山／依田(写真左)だった



CS2 Cクラスを制したのは総合2位の吉村／寺西(写真中央)。続く総合3位の松本吉章／中村賢明(写真左)がCS2 Cクラス2位となった



## ■Clubman Sport 120 Minutes Endurance Challenge (MEC120) 【その3】



クラブマンスポーツを制したのは総合4位に食い込んだ猪爪杏奈/岡本大地(写真中)。クラス2位は総合7位の中里紀夫(同左)だった



男性1名、女性1名がチームを結成したMix-Genderクラスについても表彰された。Mix-Genderクラスのウィナーは猪爪/岡本(写真中)だった

## Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光った  
ドライバーに一问一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一问一答  
「Voice of Pick up Driver&Team」。

スーパーFJ Classで2位チェッカー

岡本 大地 選手 (23歳) FTK・レヴレーシングガレージ



**Q: 土曜日に行われた公式予選はウェット路面でのタイムアタックに。岡本選手を含むトップ4台が2分29秒台をマークしました。**

「ドライ路面だった練習走行の時、トップとは1秒から2秒の差がありました。ストレートスピードも速くなかったので予選では中盤以降に落ちるだろうと考えていたのですが、雨が降ったことにより、そこまで離されずに済みました。恵みの雨でした」

**Q: 決勝レースではオープニングラップで見せ場を作りましたね。**

「スタートと1周目には自信があるので、序盤にプッシュしようと考えていました。狙っていた通り、スタートに成功し、オープニングラップではふたつ順位を上げることができて良かったと思います。2周目以降はタイヤマネージメントを考えながら走りました」

**Q: 終盤に居附明利選手のマシンにトラブルが発生しましたね。岡本選手は2位チェッカーを受けました。**

「背後で後続がバトルを展開していましたが、僕はタイヤを温存できていたので追いつかれることはないと考えていました。たまたま居附選手のトラブルがあっただけで、本来は3位だったと思います。これが今の実力です。もっと経験を積みたいです」